

3 子どもの生活環境、健康状態が保護者の育児負担感に与える影響

3-1 はじめに

本章では、子どもの生活環境、健康状態が保護者の育児負担感に与える影響を分析する。育児に伴う保護者の負担・悩みの実態を把握し、その解消に努めることは、子どもを育てやすい社会を実現するために必要であるというだけでなく、少子化対策という側面からも重要である¹。

21世紀出生児縦断調査では、第1回調査（生後6か月）から第13回調査（13歳）まで、対象児の生活環境や健康状態とともに、対象児の保護者に対して、子どもを育てていて（もって）負担に思うことを調査している。加えて、第7回調査（6歳）から第12回調査（12歳）にかけては、子どもについての悩みも調査している。このような調査の特性を活かし、子どもがどのような属性をもつ場合に、保護者の子育てにおける負担感が大きい傾向があるのかを明らかにしていく。

さらに、保護者の育児負担感が強いことが明らかになった属性については、具体的にどのような負担感・悩みを抱える傾向にあるのかを特定していく。子どもの乳幼児期の段階で得られる情報を用いて、将来にわたって保護者の育児負担感が強いと予想される属性を明らかにすることで、長期的な視点に立った子育て支援政策が可能になる。

3-2 集計対象と集計の方法

（1）集計対象

21世紀出生児縦断調査の調査対象者のうち、第1回調査（生後6か月）から第12回調査（12歳）の全てに連続して回答している27,582人を集計の対象とした。これは第1回調査に回答している47,015人の58.7%にあたる。なお、保護者の育児負担感得点（詳細は以下）を集計する際には、「子どもを育てていて（もって）負担に思うこと」ないし「子育てに関する悩み」の質問項目に対して有効な回答を行っていた者のみを集計対象とした。

（2）保護者の育児負担感

21世紀出生児縦断調査の第1回から第12回調査では、対象児の保護者に対して「子どもを育てていて（もって）負担に思うこと」を調査している。加えて、第7回調査から第12回調査では「子どもに関する悩み」も調査している。調査票では、「子育てによる身体の疲れが大きい」、「子育てで出費がかさむ」といった具体的な選択肢が複数提示され、回答者は該当するもの全てを選択するという形式になっている。（参考1 調査回別にみた子どもを育てていて（もって）負担に思うこと・子どもに関する悩みの選択肢一覧）

この調査項目から、保護者が「子どもを育てていて（もって）負担に思うこと」若しくは「子どもに関する悩み」として選択した選択肢の数を調査の実施回ごとに合計し、育児負担感の強さを示す得点とみなした。（負担・悩みは特にないという趣旨の選択肢を選んでいる場合は0点とした。）以下では、これを「育児負担感得点」と呼ぶ。

なお、調査の実施回によって「子どもを育てていて（もって）負担に思うこと」若しくは「子どもに関する悩み」の質問において提示されている選択肢の数は異なっているため、調査の実施回によって育児負担感得点の最大値が異なる（参考1を参照）。よって、調査の実施回ごとの育児負担感得点の推移を、そのまま保護者の育児負担感の強さの推移と考えることはできないという制約がある。（ただし第4回から第6回調査、第7回から第12回調査の各期間中は育児負担感得点の最大値が同一で

¹国立社会保障・人口問題研究所によって行われている第15回出生動向基本調査（2015年実施）においても、予定の子ども数が理想の子ども数を下回ることを予測している夫婦のうち、約2割（17.6%）が「これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから」という理由を挙げている。また、平成28年6月に閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」においては、子育て中の保護者の約4割が悩みや不安を抱えていることが指摘されており、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援を実現する子育て世代包括支援センターの全国展開が目標とされている。

あるため、各期間中は推移とみなすことができる。)

しかし、子どもの属性別に育児負担感得点を集計し、その値を全対象児の平均との差や属性間の違いを検討することで、保護者の育児負担感が強い属性を明らかにすることが可能となることから、育児負担感得点を有意義な指標であると考え、集計に用いることとした。集計結果のグラフでは、対象児の生後6か月時点である第1回調査（育児負担感得点の最大得点は8点）、第4回調査から第6回調査（最大得点は19点で共通）、第7回から第12回調査（最大得点は36点で共通）の結果を提示する。

（3）子どもの属性

本調査は縦断調査（同一の個人を長期間追跡して行う調査）であるため、ある時点（たとえば生後6か月時点）で判明している情報が数年後（たとえば小学校入学後）の対象児・保護者の状況とどのように関連しているかを知ることができるという強みがある。以下では、対象児の基本的属性（性別、出生順位）と生活環境（同居の家族構成）、さらには対象児の健康状態（通院の理由となった病気の種類）別に、「育児負担感がある保護者の割合」と「育児負担感得点」の平均値の集計を行った。

3-3 子どもの基本属性・生活環境別にみた保護者の育児負担感

(1) 子どもの基本属性別にみた保護者の育児負担感の推移

対象児の性別、出生順位別に保護者の育児負担感得点の集計を行った。

性別にみると、第1回調査ではほとんど差がみられないが、第4回調査から第6回調査、第7回調査から第12回調査の期間においては、女兒よりも男児の場合に保護者の育児負担感得点の平均が高い(図1)。

また、出生順位別にみると、第1回調査を除き、第1子よりも第2子、第2子よりも第3子以降の場合に育児負担感得点が高い。また、多胎児の場合、第1回調査と第4回調査から第5回調査の育児負担感得点の平均が最も高い。第1子よりも第2子、第3子以降の順に育児負担感が低いこと、また、乳児期から幼児期にかけては多胎児の育児負担感が最も高いことがうかがえる。(図2)

図1 対象児の性別にみた保護者の育児負担感得点の平均
(第1回調査、第4回調査から第6回調査、第7回調査から第12回調査)

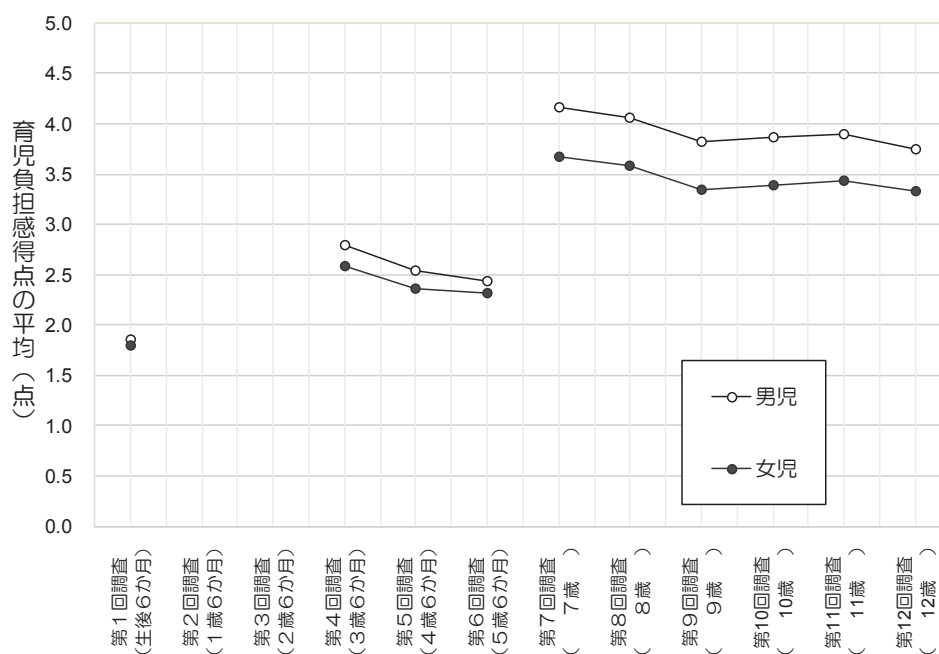
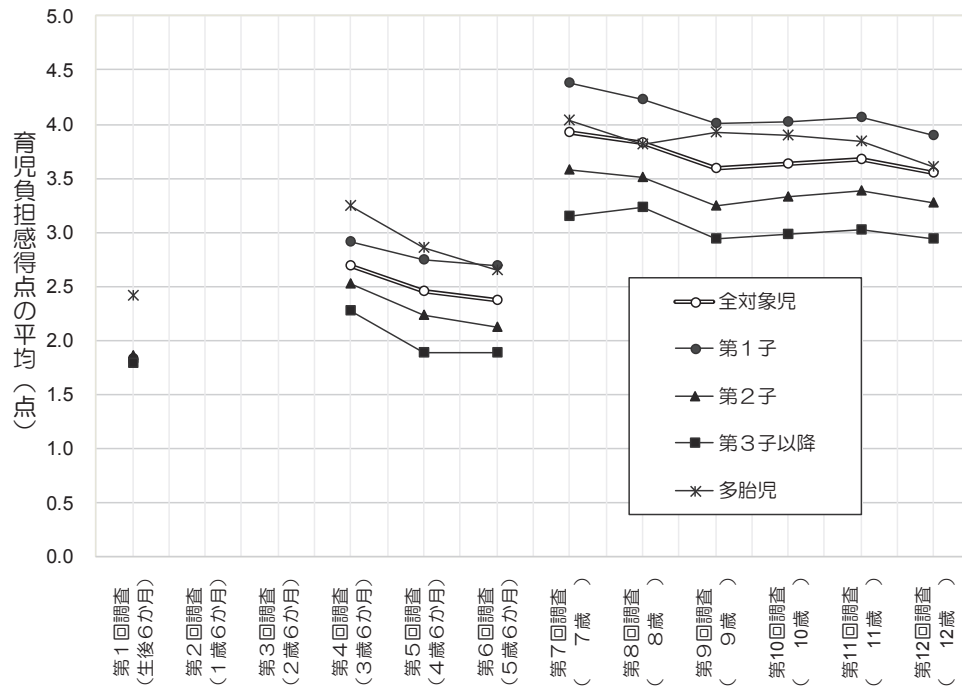


図2 対象児の出生順位別にみた保護者の育児負担感得点の平均
 (第1回調査、第4回調査から第6回調査、第7回調査から第12回調査)



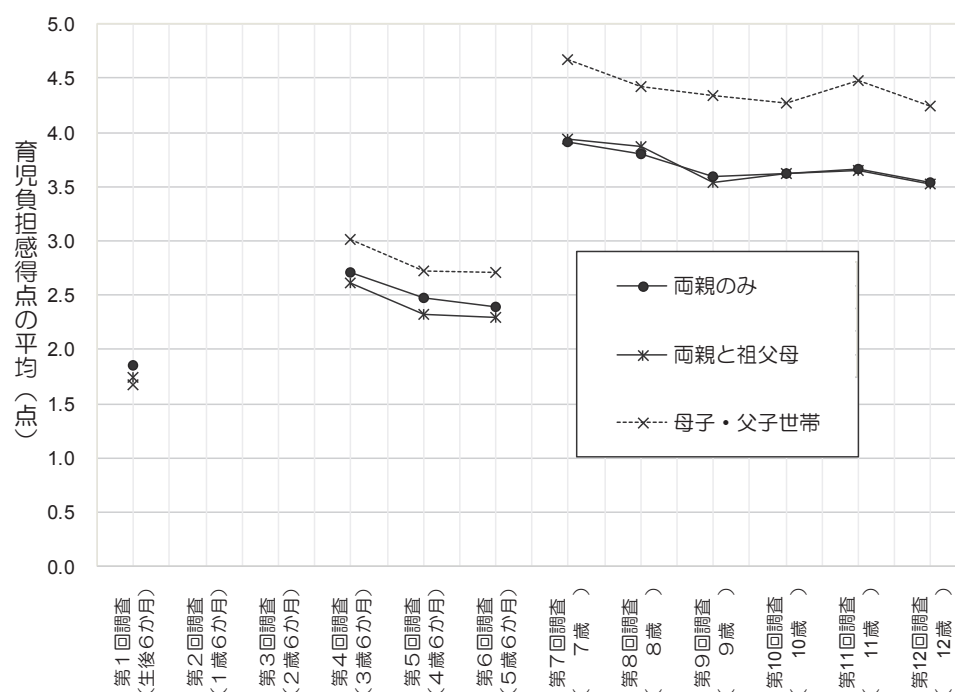
注：出生順位は第1回調査における同居のきょうだい数から算出。単胎・多胎の別は人口動態調査出生票から区別した。なお、多胎児の集計では出生順位（第1回調査における同居の兄弟の有無）は考慮しておらず、第1子、第2子、第3子以降のカテゴリーには多胎児は含んでいない。

(2) 同居の家族構成別にみた保護者の育児負担感

第1回調査(生後6か月)時点の同居の家族構成別に、保護者の育児負担感得点の集計を行った。また、保護者の育児負担感は子供の出生順位によって異なるため、出生順位別に同居の家族構成別の集計も行った。

第4回調査(3歳6か月)から第6回調査(5歳6か月)、第7回調査(7歳)から第12回調査(12歳)では、「母子・父子世帯」の場合に保護者の育児負担感得点の平均値が最も高い。また、「両親と祖父母」世帯と「両親のみ」世帯を比較すると、第1回調査(生後6か月)と第4回調査(3歳6か月)から第6回調査(5歳6か月)では「両親と祖父母」世帯において保護者の育児負担感得点が低い傾向がみられた。(図3)

図3 第1回調査時点の同居の家族構成別にみた保護者の育児負担感得点の平均(第1回調査、第4回調査から第6回調査、第7回調査から第12回調査)

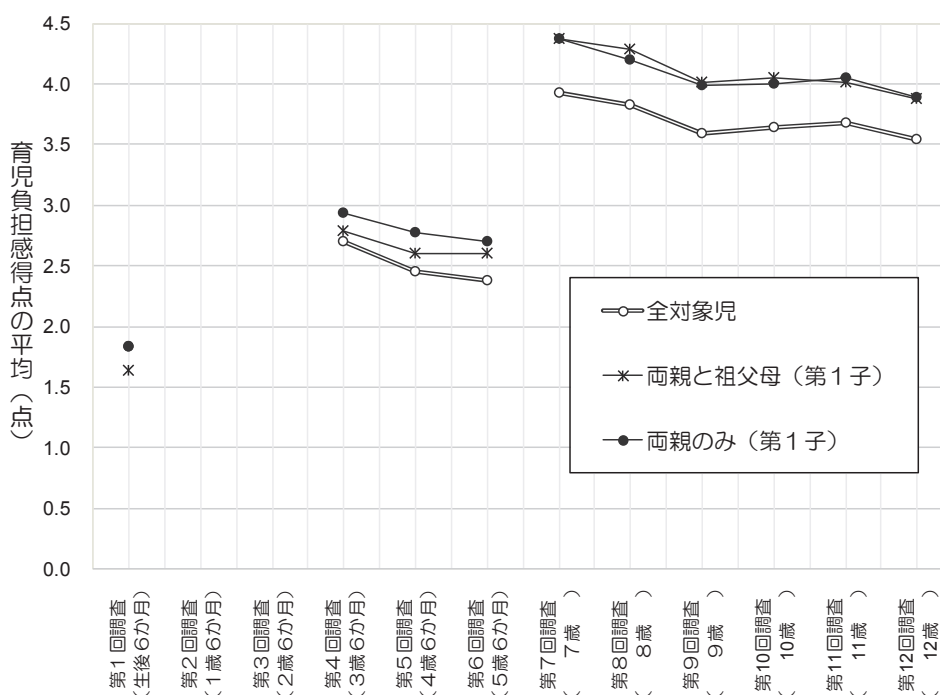


注：父親・母親の双方が対象児と同居している場合を「両親のみ」、父親・母親に加えて対象児の祖父祖母のうち1人以上が同居している場合を「両親と祖父母」、祖父母の同居・非同居にかかわらず、父親・母親のどちらか、又は父親・母親の双方と同居していない場合を「母子・父子世帯」として集計。

出生順位別にみていくと、第1子の場合、第1回調査、第4回から第6回調査では「両親のみ」の場合よりも「両親と祖父母」の場合において、育児負担感のある保護者の割合が低い傾向がみられるが、第2子と第3子以降ではほとんど差はみられない。しかし、第7回調査から第12回調査における育児負担感得点の平均値をみると、第1子の場合「両親のみ」と「両親と祖父母」の間にほとんど差はみられないものの、第2子、第3子ではわずかに「両親と祖父母」が上回る傾向がみられる。

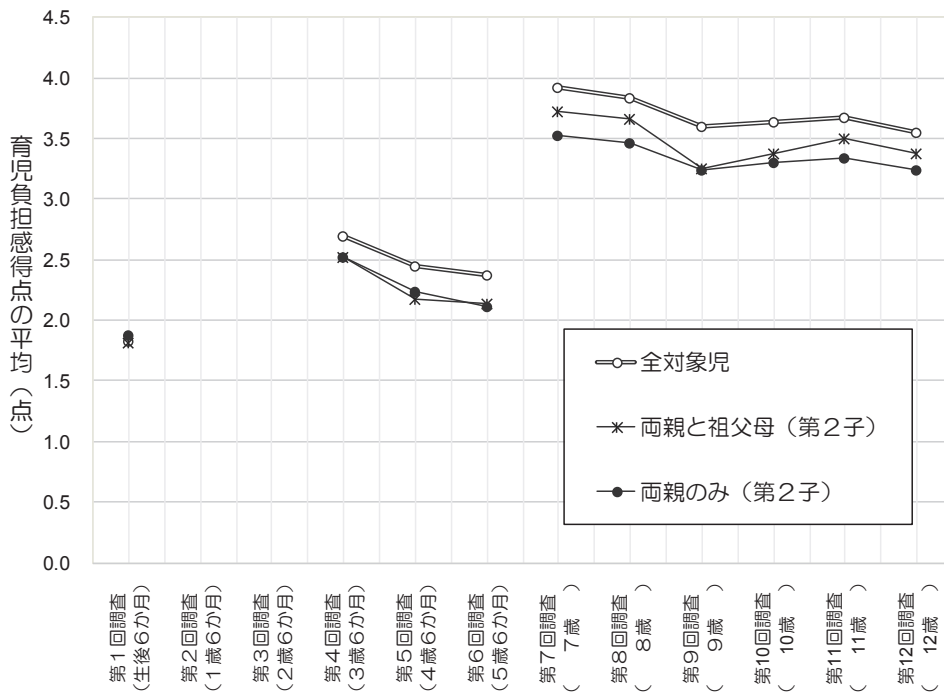
祖父母と同居が保護者の育児負担感を軽減する効果は、子どもの幼児期、特に第1子の場合に最も明確に表れるということができよう。(図4-1、図4-2、図4-3)

図4-1 第1回調査時点の同居の家族構成別にみた保護者の育児負担感得点の平均(第1回調査、第4回調査から第6回調査、第7回調査から第12回調査)：第1子



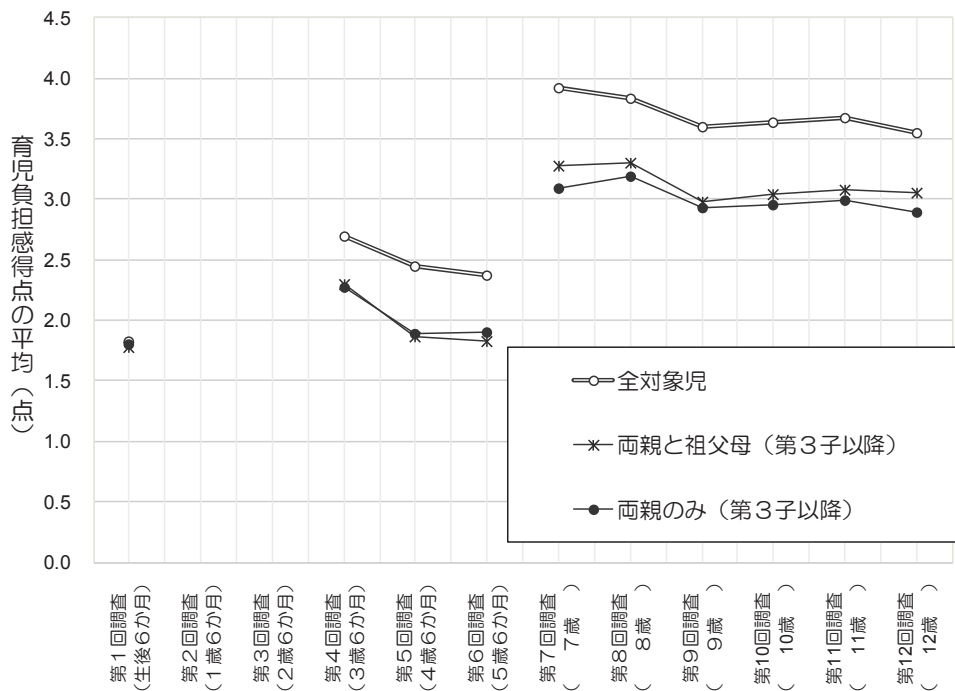
注：「両親のみ」「両親と祖父母」の分類方法は図3の注と同様。「全対象児」は、出生順位にかかわらずすべての集計対象者を集計した結果。

図4-2 第1回調査時点の同居の家族構成別にみた保護者の育児負担感得点の平均
(第1回調査、第4回調査から第6回調査、第7回調査から第12回調査)：第2子



注：「両親のみ」「両親と祖父母」の分類方法は図3の注と同様。「全対象児」は、出生順位にかかわらずすべての集計対象者を集計した結果。

図4-3 第1回調査時点の同居の家族構成別にみた保護者の育児負担感得点の平均
(第1回調査、第4回調査から第6回調査、第7回調査から第12回調査)：第3子以降



注：「両親のみ」「両親と祖父母」の分類方法は図3の注と同様。「全対象児」は、出生順位にかかわらずすべての集計対象者を集計した結果。

(3) 同居の家族構成別にみた保護者の育児負担感の内容

(2) のとおり、特に子どもが第1子の場合において、「両親と祖父母」世帯では、「両親のみ」世帯よりも育児負担感が低い傾向がみられた。それでは、「両親と祖父母」世帯では、具体的にどのような負担感が軽減されているのであろうか。第1子を対象に、第1回調査時点の同居の家族構成別に第1回調査から第6回調査における育児負担感の内容を集計した。

第1回調査では「両親のみ」よりも「両親と祖父母」の場合に、「子育てによる身体の疲れが大きい」「子育てで出費がかさむ」「自分の自由な時間が持てない」「夫婦で楽しむ時間がない」を選択する割合が低い。一方で、「仕事が十分にできない」「子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない」「子どもが病気がちである」ではほとんど差がみられない。(図5-1)

さらに第3回調査で特徴的なのは「両親と祖父母」の場合に「子どもを一時的にあずけたいときにあずけ先がない」を選択する割合が低い点である。一方で、「両親と祖父母」の場合の方が「両親のみ」よりも「しつけのしかたが家庭内で一致していない」を選択する割合が高い。同様に「配偶者が育児に参加してくれない」「子どもが言うことを聞かない」「子どもが急病のときに診てくれる医者が近くにいない」を選択する割合もわずかに高い。(図5-3)

第4回調査以降では、「両親のみ」よりも「両親と祖父母」の場合に「子育てによる身体の疲れが大きい」「子育てで出費がかさむ」「自分の自由な時間が持てない」「仕事や家事が十分にできない」「子どもを一時的にあずけたいときにあずけ先がない」といった項目を選択する保護者の割合が低い。その一方で、「配偶者が育児に参加してくれない」「しつけのしかたが家庭内で一致していない」「子どもが言うことを聞かない」「しつけのしかたがわからない」といった項目では、「両親と祖父母」の場合に選択される傾向がみられた。(図5-4、図5-5、図5-6)

第1子の乳幼児期において、祖父母との同居によって、保護者の身体的・時間的・経済的負担感が軽減される一方で、子どものしつけの面で不一致が生じやすい傾向があることが明らかになった。

図5-1 第1回調査時点の同居の家族構成別にみた保護者の育児負担感の内容
(第1回調査)：第1子

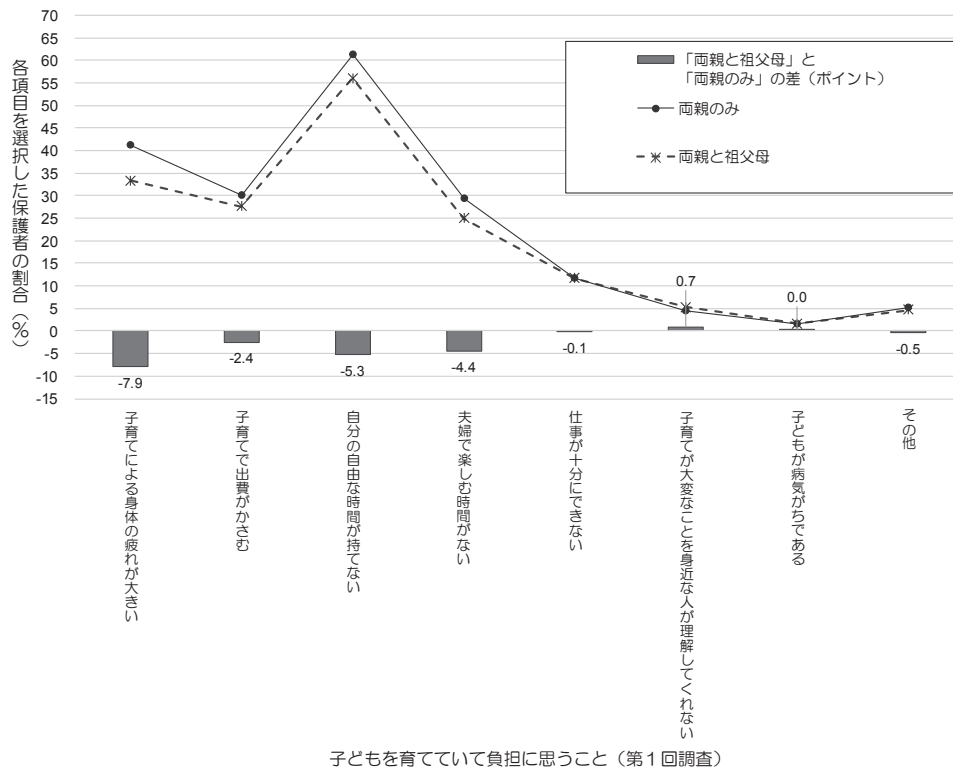


図5-2 第1回調査時点の同居の家族構成別にみた保護者の育児負担感の内容
(第2回調査)：第1子

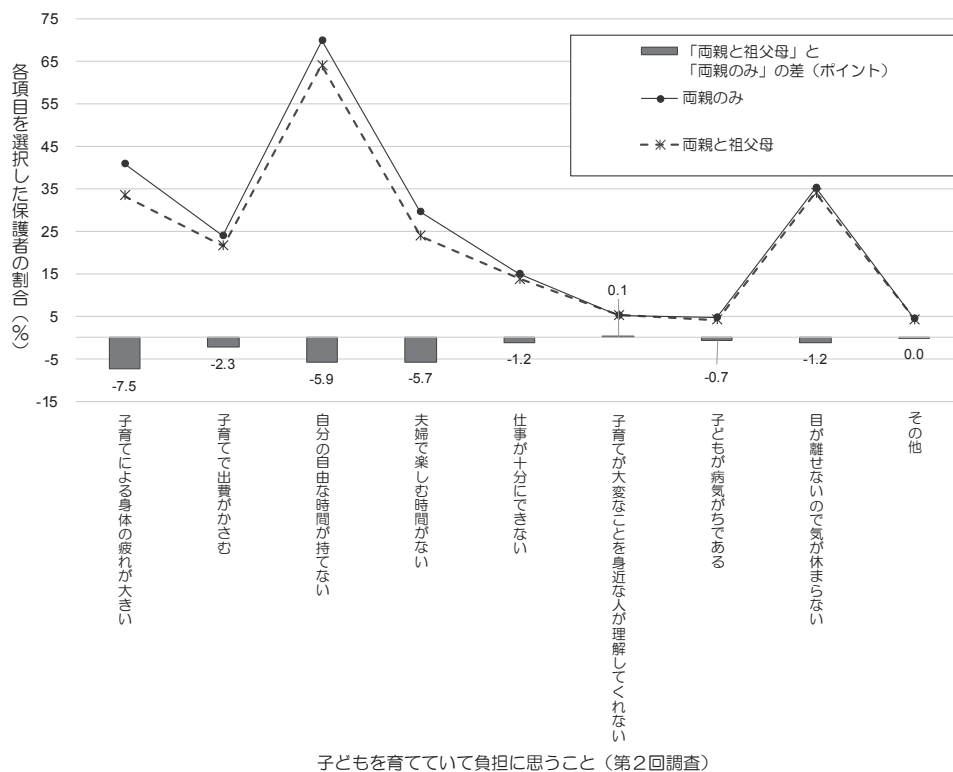


図5-3 第1回調査時点の同居の家族構成別にみた保護者の育児負担感の内容
(第3回調査)：第1子

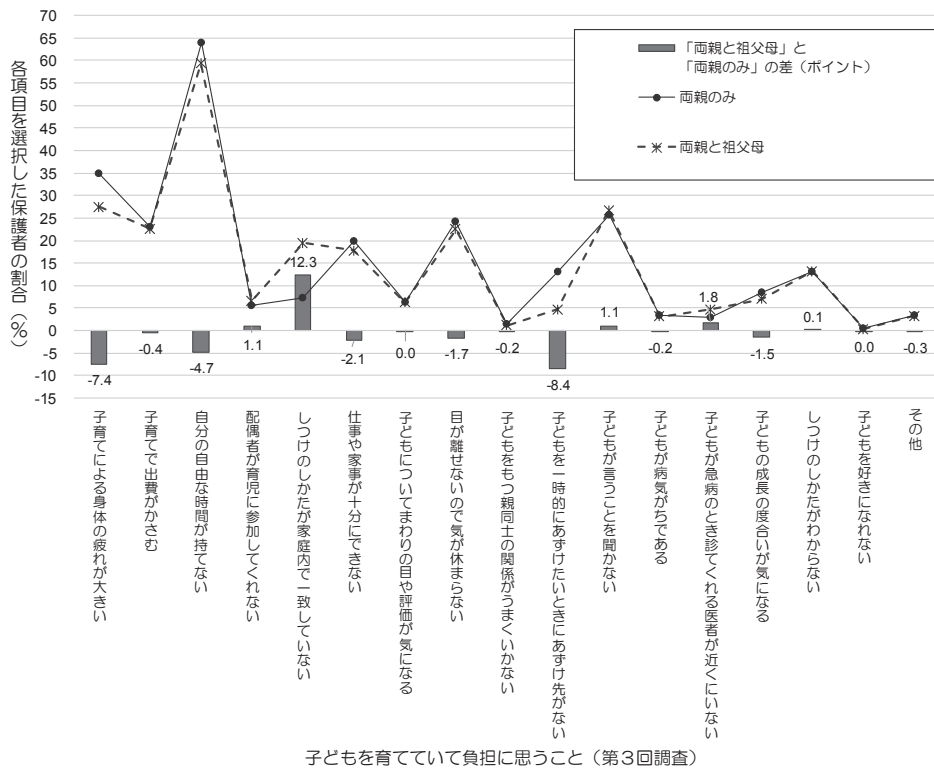


図5-4 第1回調査時点の同居の家族構成別にみた保護者の育児負担感の内容
(第4回調査)：第1子

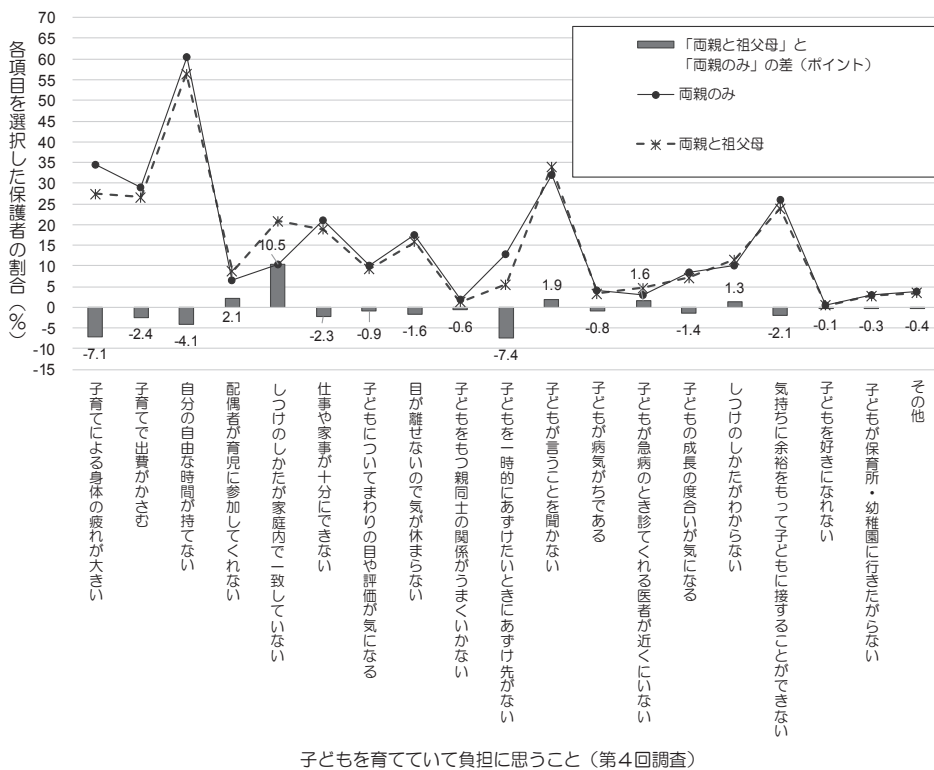


図5-5 第1回調査時点の同居の家族構成別にみた保護者の育児負担感の内容
(第5回調査)：第1子

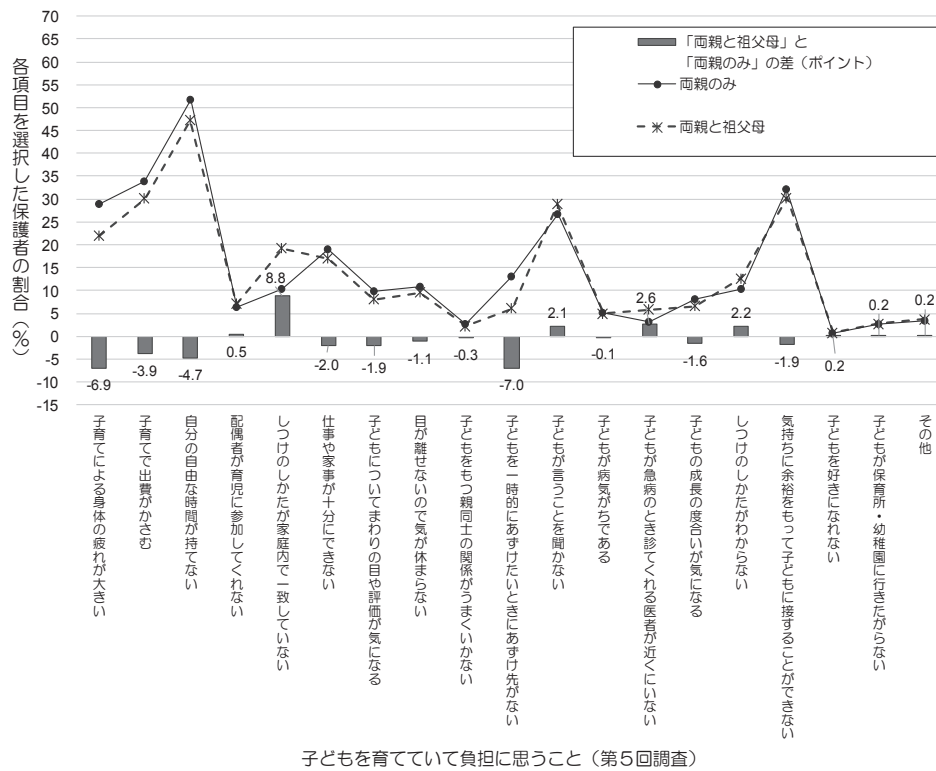
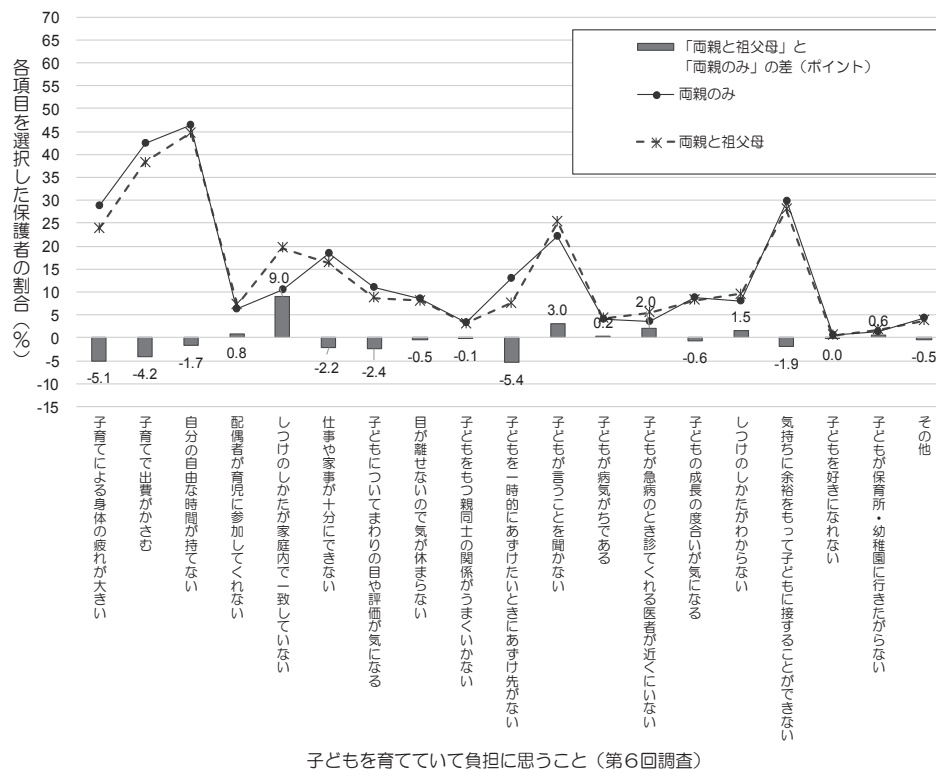


図5-6 第1回調査時点の同居の家族構成別にみた保護者の育児負担感の内容
(第6回調査)：第1子



3-4 小学校入学前後の子どもの健康状態と保護者の育児負担感

(1) 子どもの健康状態の指標：通院の理由となった病気の種類

21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）では第2回調査以降、対象児が調査の実施時点の過去1年内（第7回調査のみ過去1年半以内）の通院の有無と通院の理由となった病気・けがの種類を調査している。この情報を用いて、病気の種類ごとに、①通院経験のある子どもの割合と②通院経験のある子どもが第2回調査から第12回調査の期間中に通院した期間の数（0期から11期）を求め、この情報に基づいて病気の種類を4つの類型に分類した²。（調査回毎の質問項目を4つの類型に分類した結果の詳細は、参考2 通院の理由となった病気の種類の分類を参照。）

表1 通院の理由となった病気の種類
：通院経験のある者の平均通院期間数と通院経験のある者の割合による分類

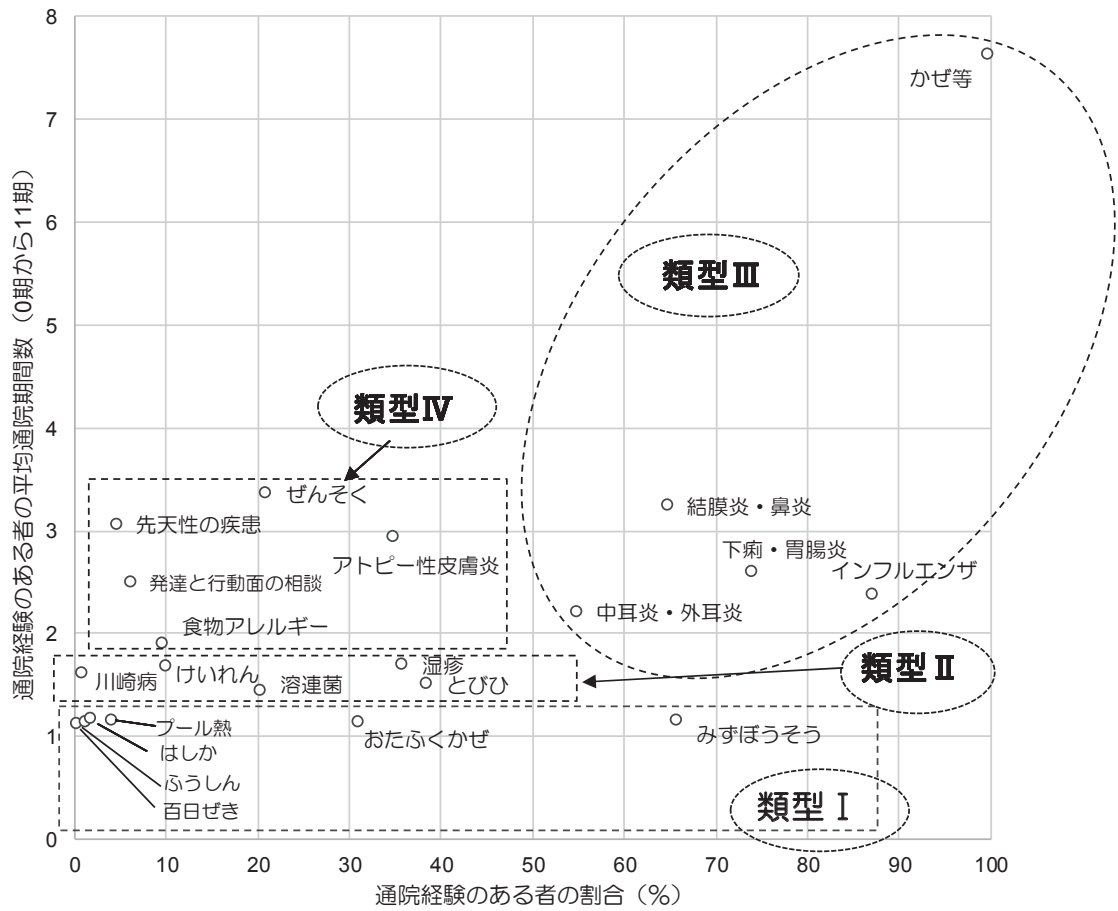
類型	
I	通院経験のある者の平均の通院期間が1～1.2までの病気 （罹患回数が少ない病気）
II	通院経験のある者の平均の通院期間が1.4～1.7程度 かつ通院経験のある者の割合が50%以下であった病気 （罹患する子どもが半数未満で通院が長期化しない傾向の病気）
III	通院経験のある者の平均の通院期間が2.0以上 かつ通院経験のある者の割合が50%以上であった病気 （半数以上の子どもが罹患し、通院期間数が多い病気）
IV	通院経験のある者の平均の通院期間が1.9以上 かつ通院経験のある者の割合が50%以下であった病気 （一部の子どもが罹患し、通院頻度が高い傾向の病気）

調査回ごとの質問項目を4つの類型に分類した結果の詳細は、「参考2 通院の理由となった病気の種類の分類」を参照。

² 第1回調査から第12回調査に連続で回答し、なおかつ通院の状況についての回答がすべての回で有効であった21,700ケースを用いた集計の結果に基づいている。

図6 通院の理由となった病気の種類

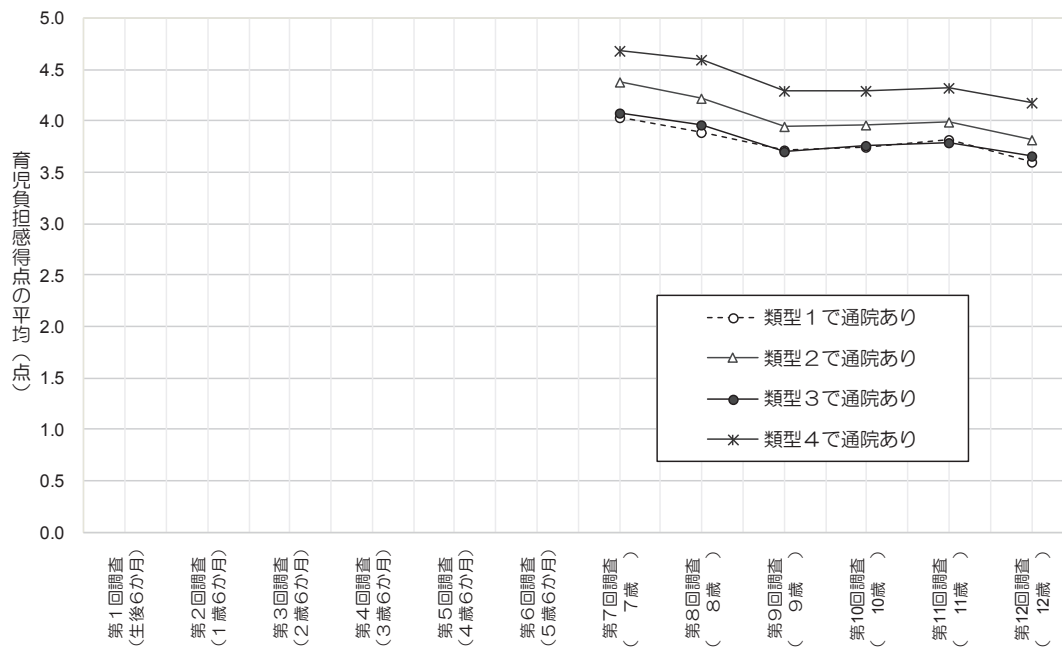
: 通院経験のある者の平均通院期間数と通院経験のある者の割合による分類



(2) 子どもの健康状態別にみた保護者の育児負担感

(1) で分類した病気の類型別に、保護者の育児負担感得点の平均の推移をみると、小学校入学前後において、類型IV「一部の子どもが罹患し、通院頻度が高い傾向の病気」での通院経験がある子どもの保護者の育児負担感得点が高い傾向がみられた(図7)。

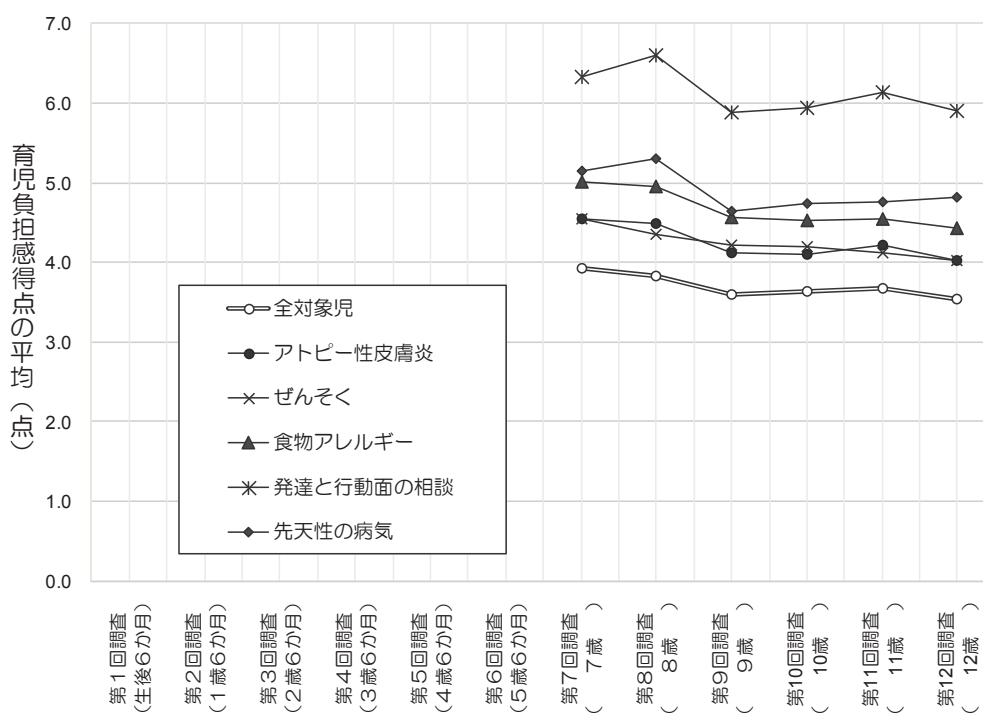
図7 第7回調査時点の通院の状況別にみた保護者の育児負担感得点の平均
(第7回調査から第12回調査)



次に、類型Ⅳに該当する「アトピー性皮膚炎」、「ぜんそく」、「食物アレルギー」、「発達と行動面の相談」、「先天性の病気」について保護者の育児負担感得点の平均の推移をみた。

第7回調査（7歳）実施前の過去1年半以内に類型Ⅳに該当する病気での通院経験がある場合、保護者の育児負担感得点は全対象児の平均と比べて「アトピー性皮膚炎」と「ぜんそく」では0.7～0.8点程度、「食物アレルギー」と「先天性の病気」では1点～1.5点程度、「発達と行動面の相談」では2.5～3点程度高い。（図8）

図8 第7回調査時点の通院の理由となった疾病別にみた保護者の育児負担感得点の平均（第7回調査から第12回調査）：類型Ⅳの病気



(3) 子どもの健康状態別にみた保護者の育児負担感の内容の比較

類型Ⅳに該当する病気での通院経験がある場合具体的にどのような負担感が軽減されているのであろうか。類型Ⅳに該当する「アトピー性皮膚炎」、「ぜんそく」、「食物アレルギー」、「発達と行動面の相談」、「先天性の病気」での通院経験に注目し、第7回調査から第12回調査の各時点における「子どもを育てていて負担に思うこと」の内容と、第7回調査から第12回調査における「子どもに関する悩み」の内容について集計を行った。

第7回調査における「子どもを育てていて負担に思うこと」をみると、「アトピー性皮膚炎」、「ぜんそく」、「食物アレルギー」、「発達と行動面の相談」又は「先天性の病気」での通院経験がある子どもの保護者は、ほとんどの項目において全体平均よりも選択する割合が高い。通院状況別に全対象児の平均との差が最も大きい項目をみると、「アトピー性皮膚炎」と「ぜんそく」での通院経験がある子どもの保護者は「子育ての出費がかさむ」、「食物アレルギー」では「子育てによる身体の疲れが大きい」、「発達と行動面の相談」では「子どもについてまわりの目や評価が気になる」、「先天性の病気」では「仕事や家事が十分にできない」であった。子どもの通院状況によって、保護者が負担に感じる内容にも違いがみられた。(図9-1-1)

第7回調査における「子どもに関する悩み」についても、類型Ⅳでの通院経験のある子どものほうが全対象児の平均よりもほとんどの項目で選択ありの割合が高い傾向がみられた。疾病別にみると、「発達と行動面の相談」での通院経験がある場合に、全対象児の平均よりも10ポイント以上選択割合が高い項目が最も多い(「友だちと遊ばない・遊べない」、「勉強に関すること」、「成長の度合いが気になる」、「その他」)。また、「先天性の病気」では「成長の度合いが気になる」、「ぜんそく」では「病気がちである」が全対象児の平均より10ポイント以上選択される割合が高いことが明らかになった。なお、「アトピー性皮膚炎」、「食物アレルギー」では「病気がちである」が選択されやすい傾向がみられた。(図9-1-2)

また、「子どもを育てていて負担に思うこと」と「子どもに関する悩み」のどちらについても前述の第7回調査時点の傾向が第8回調査以降も継続していることが明らかになった(図9-2-1～図9-6-2)。

図9-1-1 第7回調査時点の通院状況別にみた保護者の育児負担感の分布
(第7回調査)

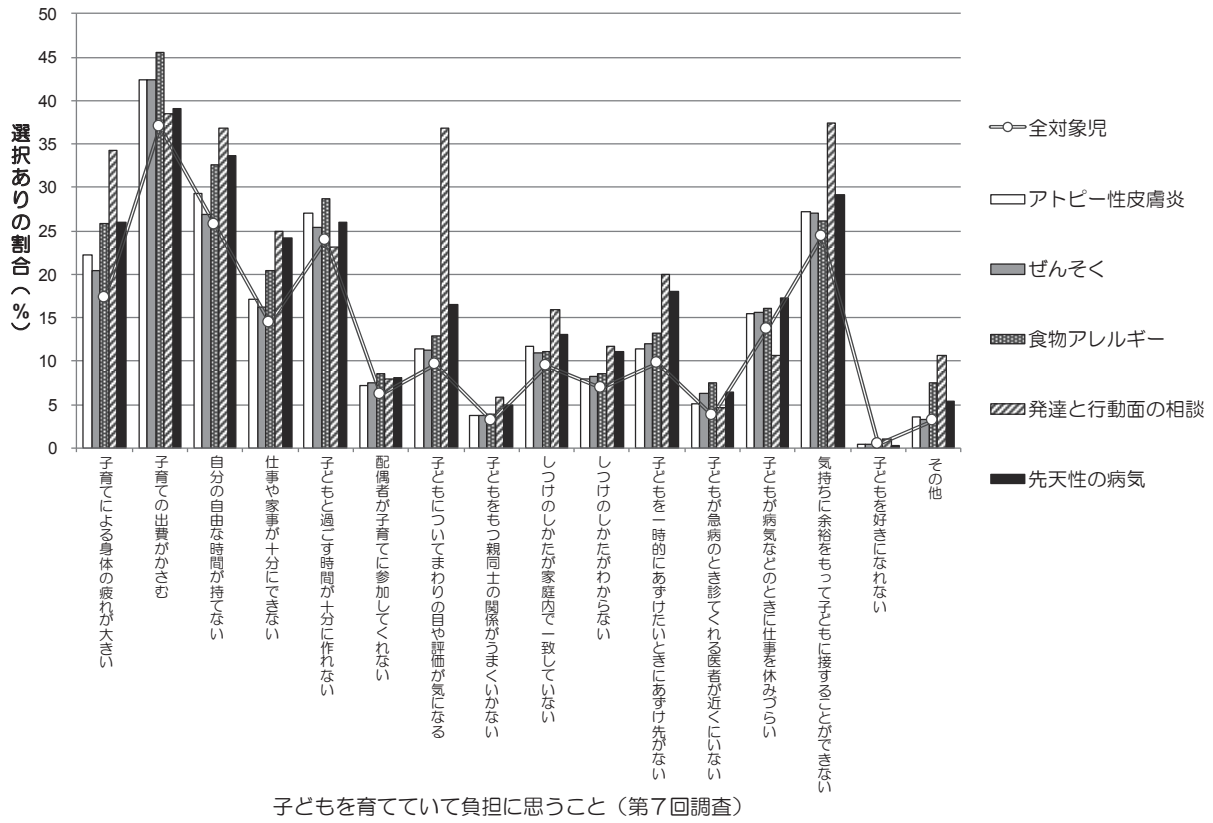


図9-1-2 第7回調査時点の通院の理由となった疾病別にみた「子どもに関する悩み」の分布 (第7回調査)

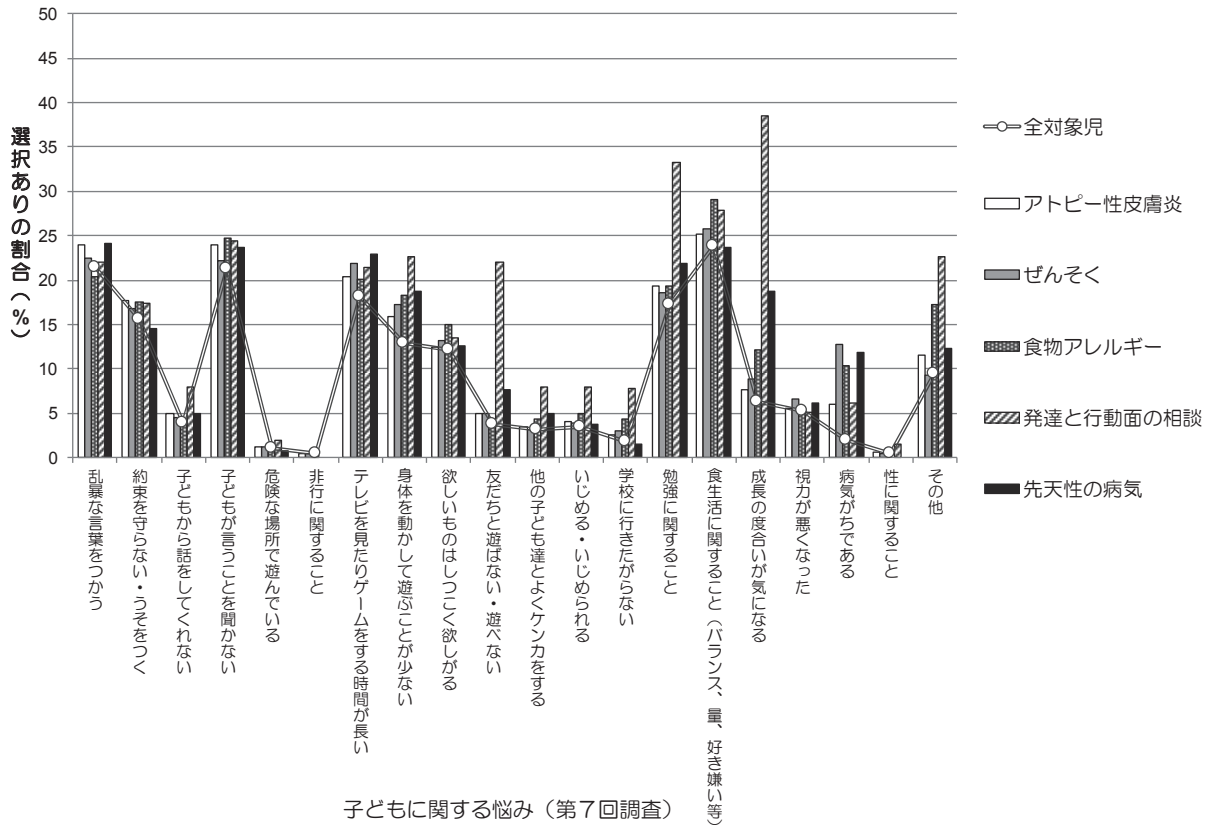


図9-2-1 第7回調査時点の通院状況別にみた保護者の育児負担感の分布
(第8回調査)

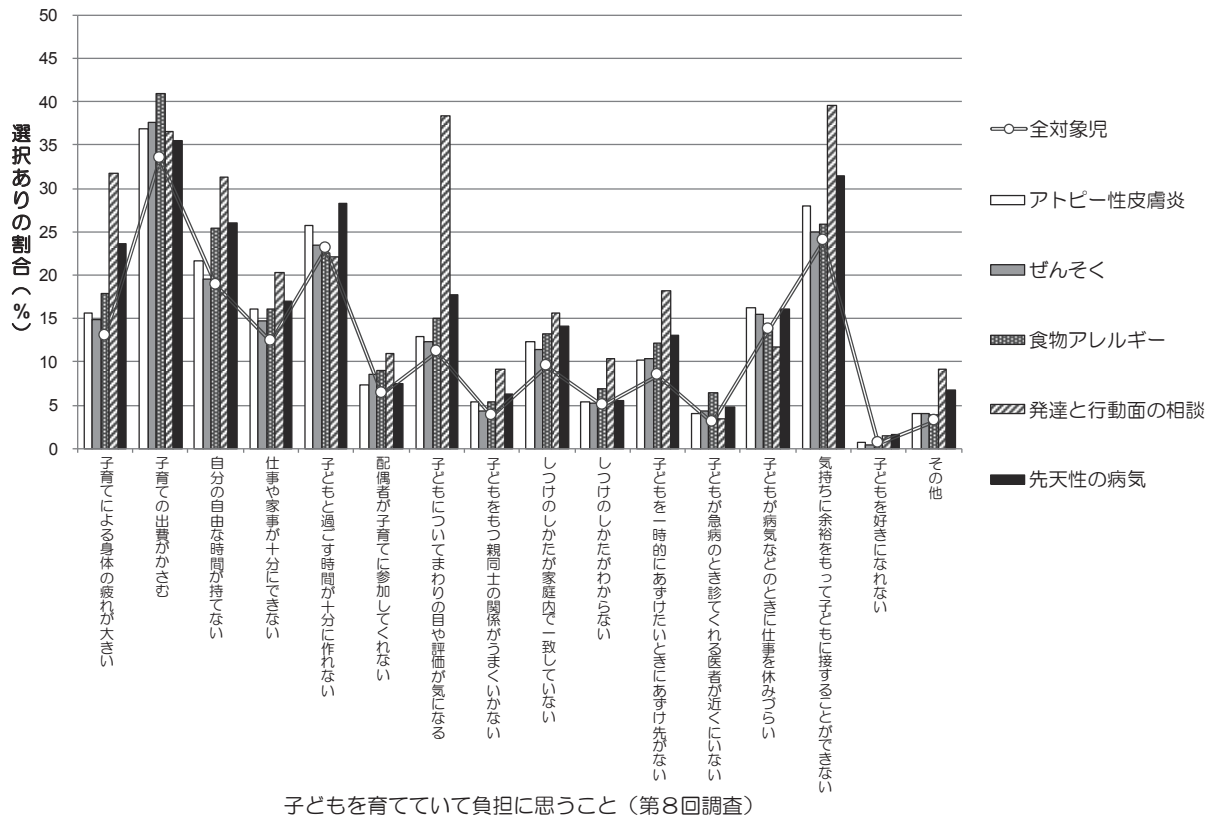


図9-2-2 第7回調査時点の通院の理由となった疾病別にみた「子どもに関する悩み」の分布 (第8回調査)

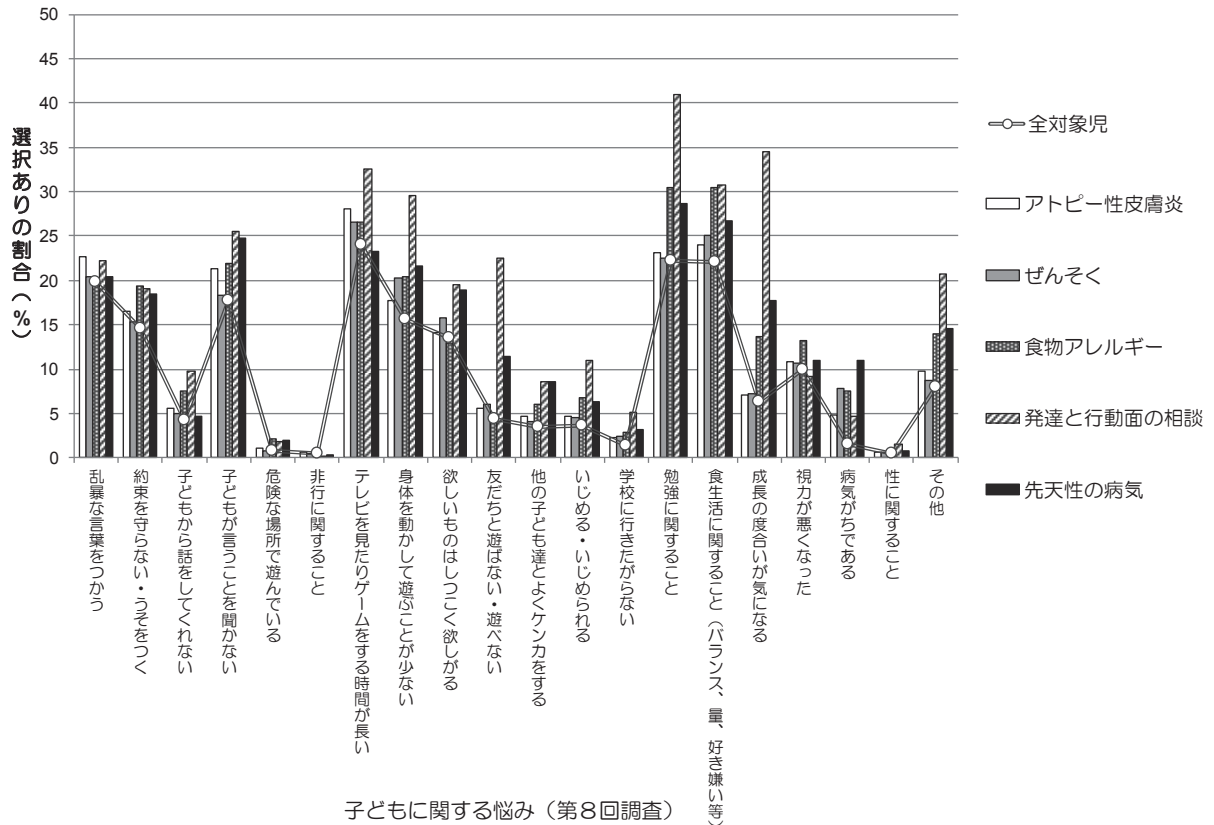


図9-3-1 第7回調査時点の通院状況別にみた保護者の育児負担感の分布
(第9回調査)

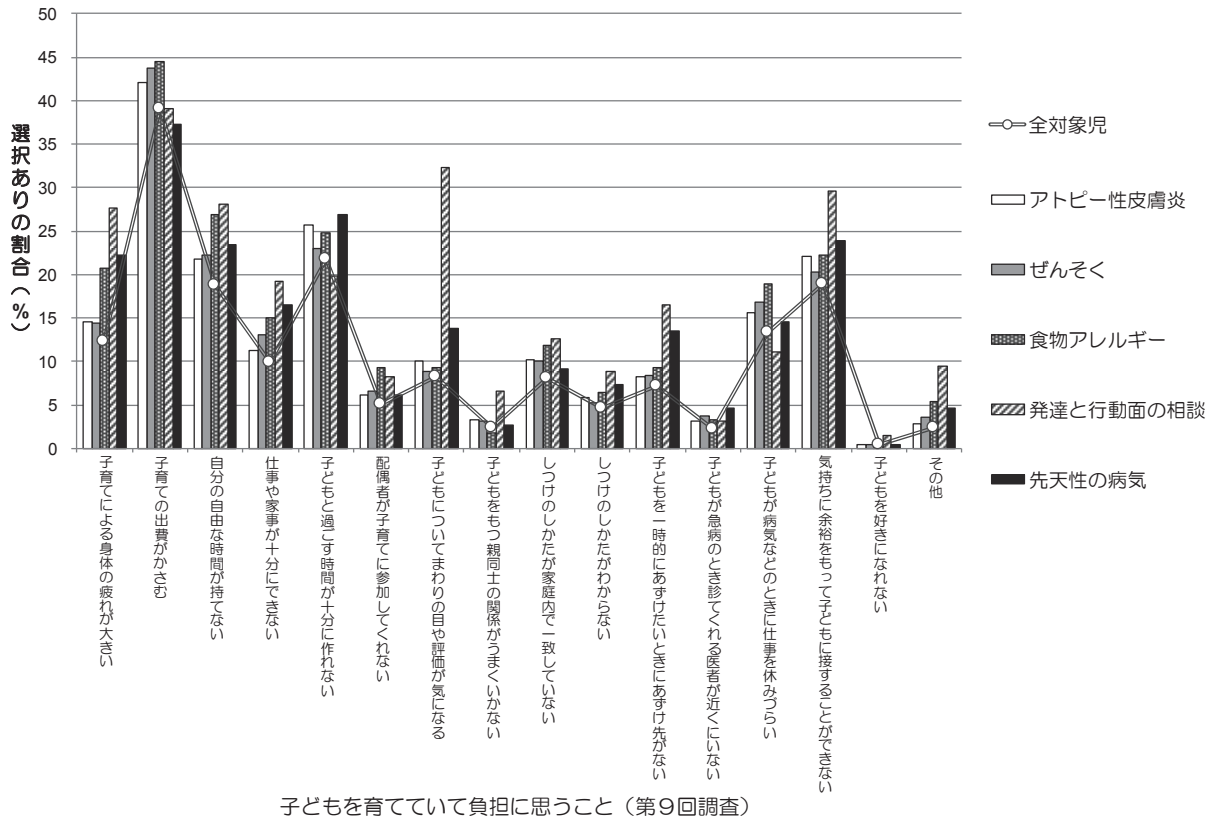


図9-3-2 第7回調査時点の通院の理由となった疾病別にみた「子どもに関する悩み」の分布 (第9回調査)

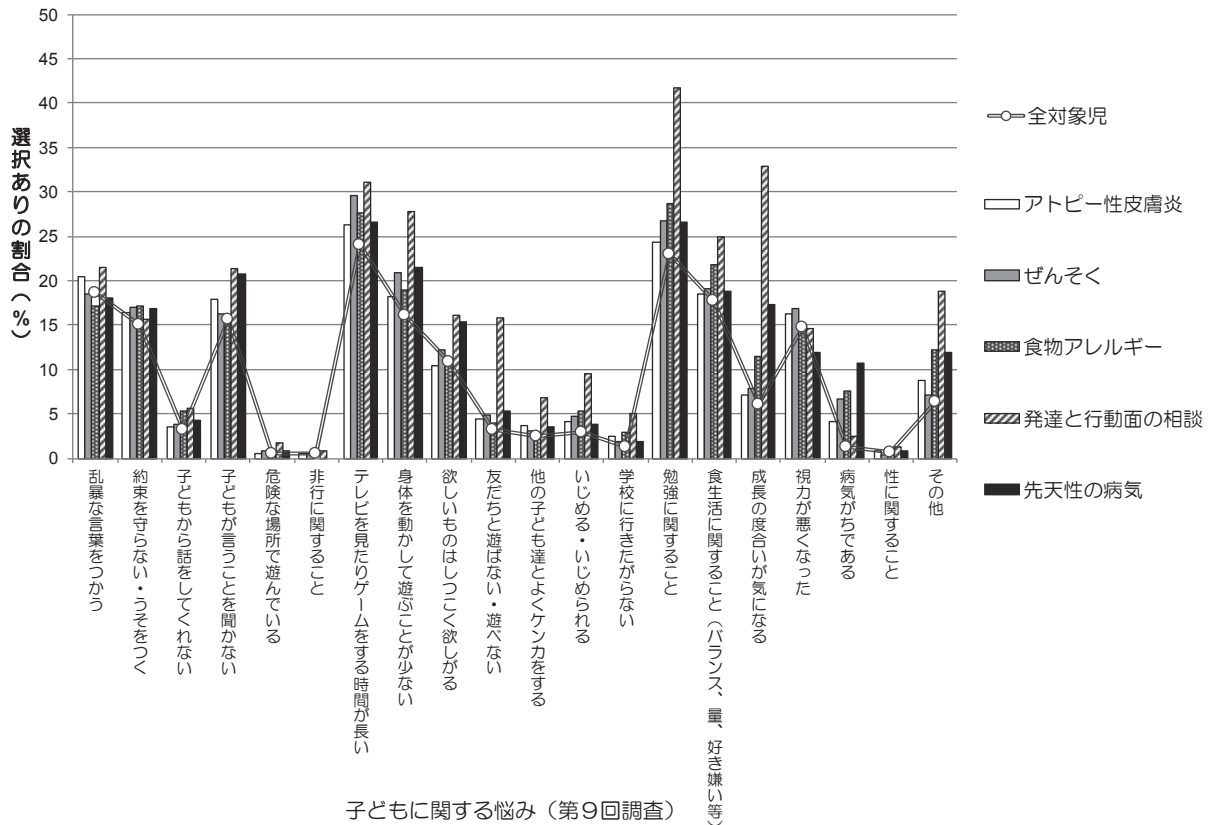


図9-4-1 第7回調査時点の通院状況別にみた保護者の育児負担感の分布 (第10回調査)

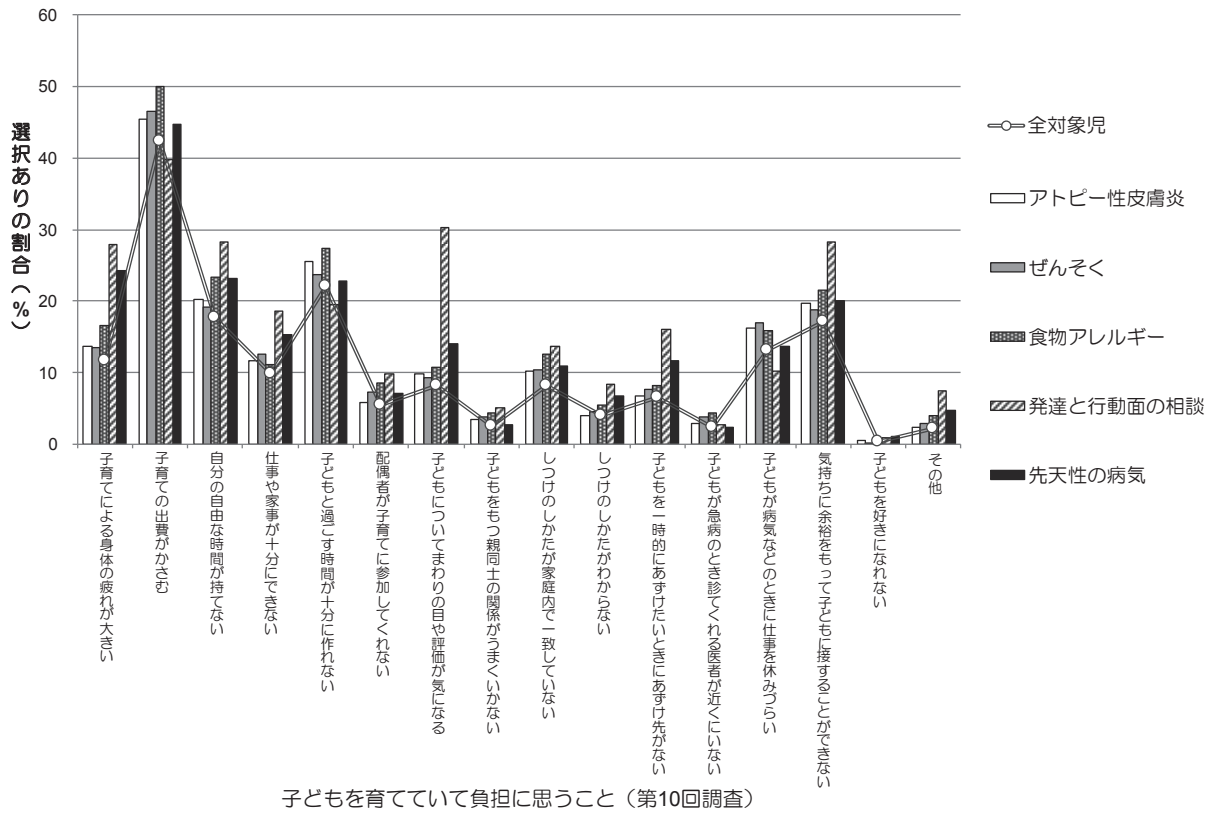


図9-4-2 第7回調査時点の通院の理由となった疾病別にみた「子どもに関する悩み」の分布 (第10回調査)

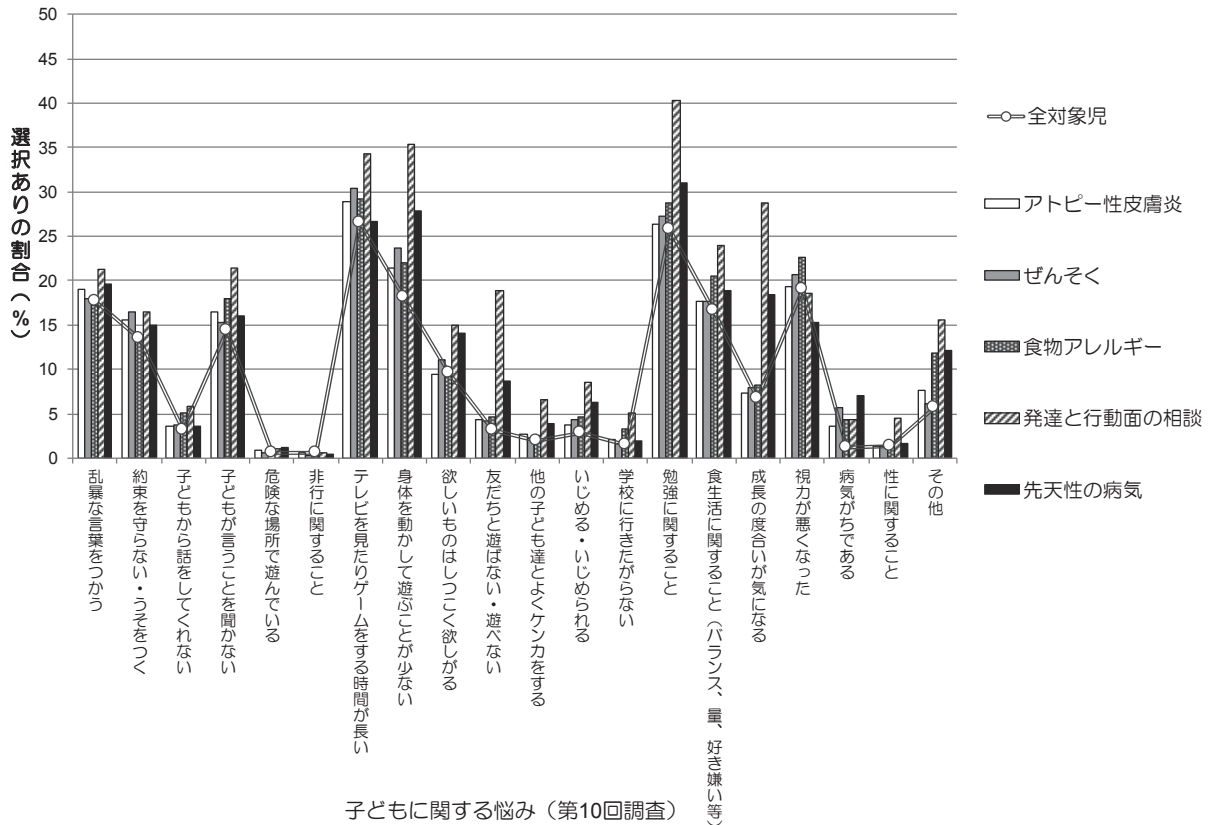


図9-5-1 第7回調査時点の通院状況別にみた保護者の育児負担感の分布
(第11回調査)

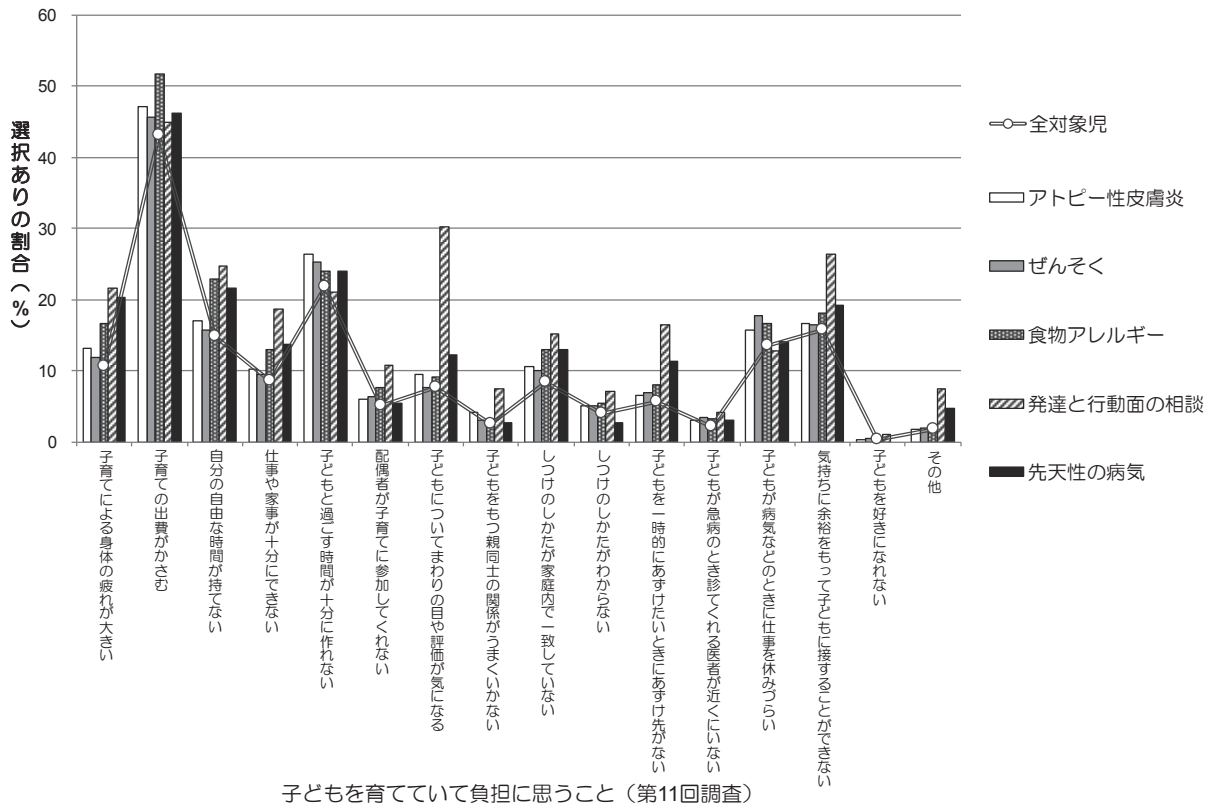


図9-5-2 第7回調査時点の通院の理由となった疾病別にみた「子どもに関する悩み」の分布 (第11回調査)

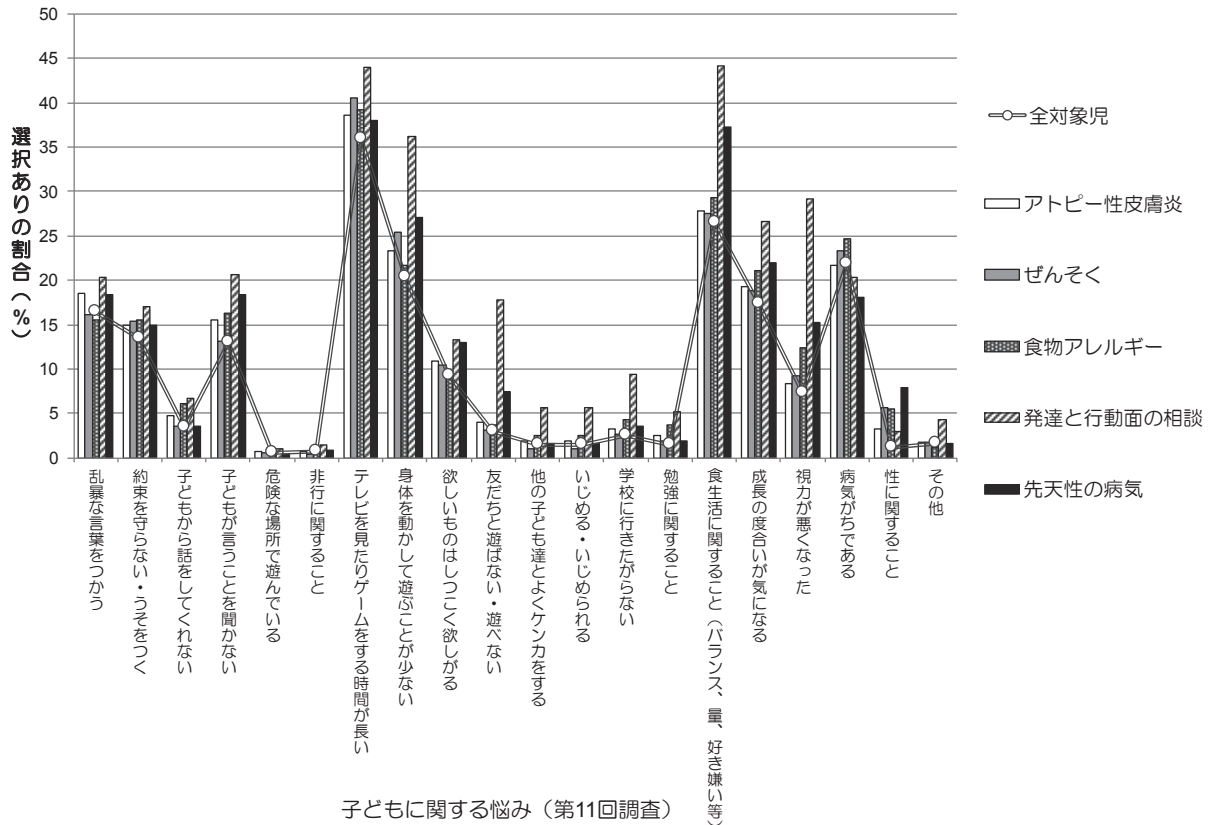


図9-6-1 第7回調査時点の通院状況別にみた保護者の育児負担感の分布 (第12回調査)

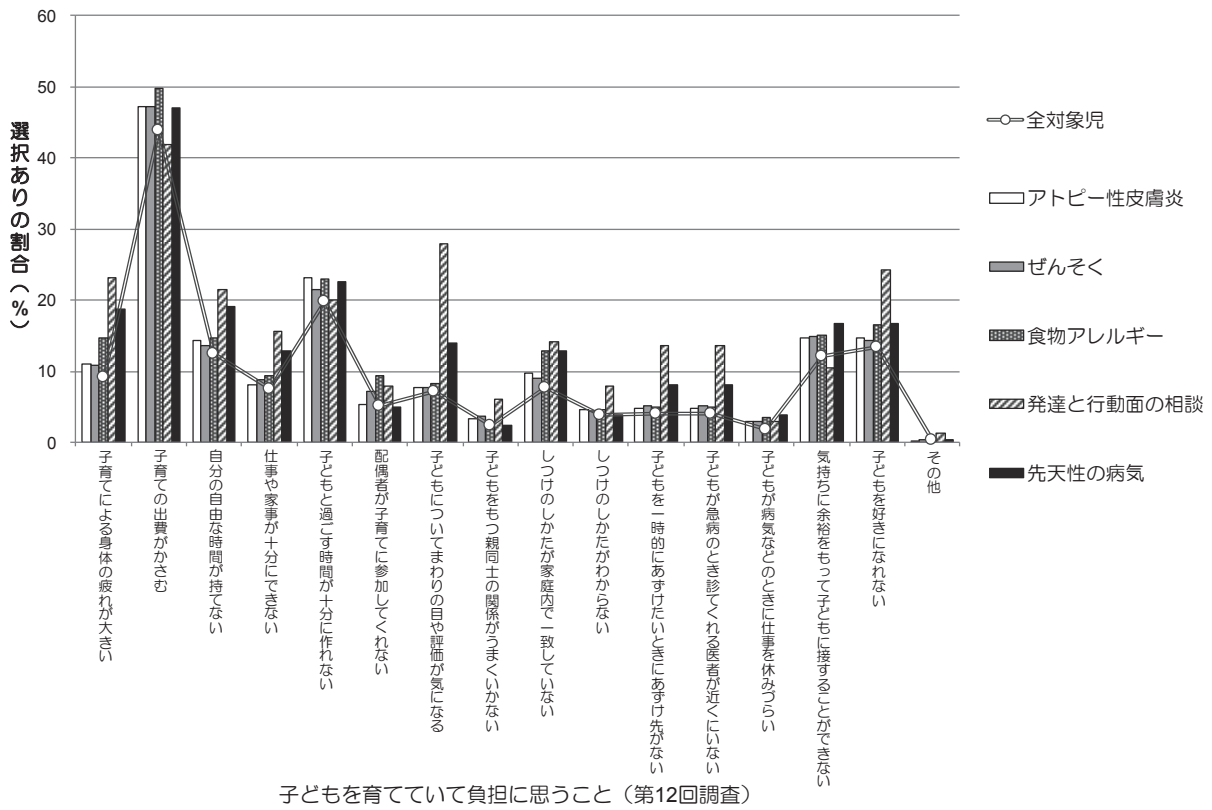
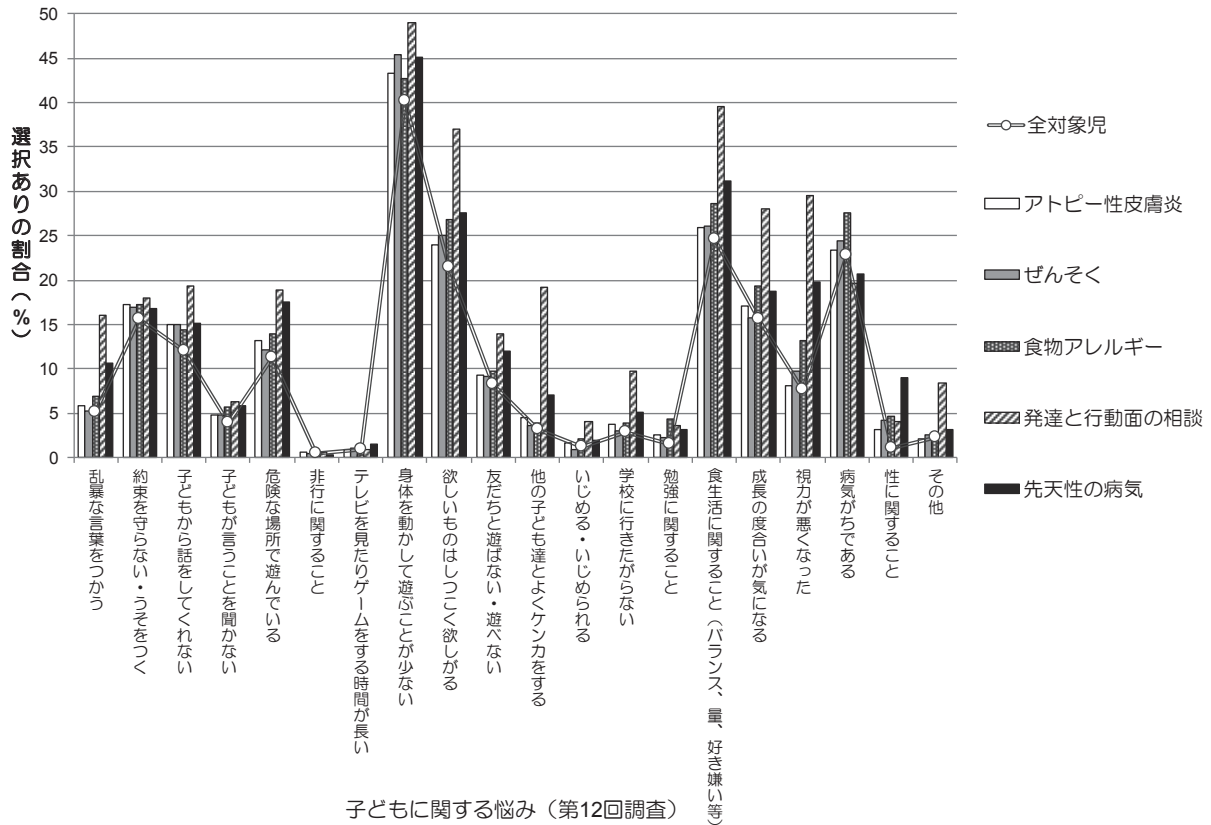


図9-6-2 第7回調査時点の通院の理由となった疾病別にみた「子どもに関する悩み」の分布 (第12回調査)



3-5 まとめ

本章では、子どもの基本属性、生活環境及び健康状態と保護者の育児負担感の関連について集計を行った。女兒よりも男児、単胎児よりも多胎児、第3子以降よりも第2子、第2子よりも第1子、母子・父子家庭の場合に保護者の育児負担感が高い傾向があることが明らかになった。

また、子どもの乳幼児期において「両親と祖父母」世帯のほうが「両親のみ」世帯よりも保護者の育児負担感が低い傾向がみられた。そして、この傾向は特に第1子の乳幼児期に顕著であった。さらに、第1子を対象に「両親のみ」世帯と「両親と祖父母」世帯の間で、保護者の育児負担感の具体的な内容を比較すると、祖父母との同居によって、保護者の身体的・時間的・経済的負担感が軽減される一方で、子どものしつけの面で不一致が生じやすい傾向があることが明らかになった。

小学校入学前後における子どもの健康状態別にみた場合、「アトピー性皮膚炎」、「ぜんそく」、「食物アレルギー」、「発達と行動面の相談」、「先天性の病気」での通院経験がある場合に保護者の育児負担感が高い傾向があることが明らかになった。「アトピー性皮膚炎」又は「ぜんそく」での通院経験がある子どもの保護者は「子育ての出費がかさむ」、「食物アレルギー」では「子育てによる身体の疲れが大きい」、「発達と行動面の相談」では「子どもについてまわりの目や評価が気になる」、「先天性の病気」では「仕事や家事が十分にできない」であった。子どもの疾病の種類によって、保護者が負担に感じる内容にも違いがみられた。

出生直後に判明・確定する子どもの基本的な属性や生活環境、また、小学校入学前後の健康状態から、その子どもの保護者の育児負担感の強さをある程度長期的に予測することが可能であることが明らかになった。その一方で、育児負担感が強い属性においても、保護者が感じる負担感の内容は異なっている。子どもの状況に応じて、長期的かつきめ細やかな子育て支援が必要であると考えられる。

参考1 調査回別にみた子どもを育てていて（もって）負担に思うこと・子どもに関する悩みの
選択肢一覧

質問文		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	
		平成13年0月に生まれたお子さんをもって負担に思うことは何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。	平成13年0月生まれのお子さんを育てていて負担に思うことは何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。	平成13年0月生まれのお子さんを育てていて負担に思うことや悩みについておたずねします。あてはまる番号すべてに○をつけてください。	平成13年0月生まれのお子さんを育てていて負担に思うことや悩みについておたずねします。あてはまる番号すべてに○をつけてください。	平成13年0月生まれのお子さんを育てていて負担に思うことや悩みについておたずねします。あてはまる番号すべてに○をつけてください。	平成13年0月生まれのお子さんを育てていて負担に思うことや悩みについておたずねします。あてはまる番号すべてに○をつけてください。	
選択肢	保護者	身体的負担	子育てによる身体の疲れが大きい	○	○	○	○	○
		経済的負担	子育てで出費がかさむ(1-6)・子育ての出費がかさむ(7-13)	○	○	○	○	○
	時間的制約	自分の自由な時間が持てない	○	○	○	○	○	○
		夫婦で楽しむ時間がない	○	○				
	仕事・家事	子どもと過ごす時間が十分に作れない						
		仕事が多忙でできない(1-2)・仕事や家事が多忙でできない(3-12)	○	○	○	○	○	○
	心理的負担	子どもの病気などのときに仕事を休みづらい						
		子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない	○	○				
		目が離せないのが気が休まらない		○	○	○	○	○
		子どもについてまわりの目や評価が気になる			○	○	○	○
	親同士の関係	子どもを好きになれない			○	○	○	○
		気持ちに余裕をもって子どもに接することができない				○	○	○
	家庭内	配偶者	子どもをもつ親同士の関係がうまくいかない			○	○	○
			ほかの保護者との付き合いが煩わしい					
		しつけ	配偶者が育児に参加してくれない			○	○	○
	配偶者が子育てに参加してくれない							
	公的サービス	保育・医療	配偶者が子育てに無関心					
			しつけのしかたが家庭内で一致していない			○	○	○
	子ども	健康と成長	しつけのしかたがわからない			○	○	○
			子どもを一時的にあずけたいときにあずけ先がない			○	○	○
子ども	生活の様子	子どもが急病のとき診てくれる医師が近くにいない			○	○	○	
		子どもが病気がちである(1-6,13)・病気がちである(7-12)	○	○	○	○	○	
	子の態度	子どもの成長の度合いが気になる(3-6)・成長の度合いが気になる(7-12)			○	○	○	
		視力が悪くなった						
	環境	性に関すること						
		テレビを見たりゲームをする時間が長い						
	交友関係	身体を動かして遊ぶことが少ない						
		食生活に関すること(バランス、量、好き嫌い等)						
	その他	成績・将来	子どもが言うことを聞かない			○	○	○
			子どもの反抗的な態度や言動					
なし	いじめ・暴力・非行	約束を守らない・うそをつく						
		欲しい物はしつこく欲しがると						
なし	その他	子どもから話してくれない						
		乱暴な言葉をつかう						
なし	その他	危険な場所で遊んでいる						
		子どもが保育所・幼稚園に行きたがらない				○	○	
なし	その他	学校に行きたがらない(7-12)・子どもが学校に行きたがらない(行かない)(13)						
		子どもの成績に関すること						
なし	その他	子どもの将来(進路など)に関すること						
		勉強に関すること						
なし	その他	子どもの交友関係に関すること						
		友だちと遊ばない・遊べない						
なし	その他	他の子ども達とよくケンカをする						
		子どもの異性との交際に関すること						
なし	その他	いじめられる・いじめられる(7-12)・子どもがいじめられている(13)						
		子どもの暴力に関すること						
なし	その他	非行に関すること						
		その他() (1-6)・その他(具体的に)(7-13)	○	○	○	○	○	
なし	その他	負担に思うことは特になし(1-2)・負担に思うことや悩みは特になし(3-13)	○	○	○	○	○	
		気になることや悩みは特になし						
最大得点		8	9	17	19	19	19	

注：第7回調査から第12回調査では、「親の悩み」を①、「子どもについての悩み」を②とした。

また、第13回調査については参考として掲載した。

参考2 通院の理由となった病気の種類の分類

		第2回(1歳6か月)	第3回(2歳6か月)	第4回(3歳6か月)	第5回(4歳6か月)	第6回(5歳6か月)
類型Ⅰ	百日ぜき	02 百日ぜき	02 百日ぜき	02 百日ぜき		
	おたふくかぜ		05 流行性耳下腺炎【おたふくかぜ】	05 流行性耳下腺炎【おたふくかぜ】	04 流行性耳下腺炎【おたふくかぜ】	04 流行性耳下腺炎【おたふくかぜ】
	風しん	03 風しん				
			03 風しん【三日はしか】	03 風しん【三日はしか】	02 風しん【三日はしか】	02 風しん【三日はしか】
	水ぼうそう	01 水ぼうそう				
			01 水痘【水ぼうそう】	01 水痘【水ぼうそう】	01 水痘【水ぼうそう】	01 水痘【水ぼうそう】
類型Ⅱ	咽頭結膜熱【プール熱】					
	はしか	04 はしか				
			04 麻疹【はしか】	04 麻疹【はしか】	03 麻疹【はしか】	03 麻疹【はしか】
	溶連菌感染症					
	とびひ	11 とびひ				
			15 伝染性膿痂疹【とびひ】	14 伝染性膿痂疹【とびひ】	16 伝染性膿痂疹【とびひ】	16 伝染性膿痂疹【とびひ】
類型Ⅲ	川崎病		06 川崎病	06 川崎病	05 川崎病	05 川崎病
	けいれん、ひきつけ	15 けいれん、ひきつけ	18 けいれん、ひきつけ	18 けいれん、ひきつけ	19 けいれん、ひきつけ	19 けいれん、ひきつけ
	湿疹			16 湿疹		
					17 湿疹(アトピー性皮膚炎は09へ)	17 湿疹(アトピー性皮膚炎は09へ)
	かぜ等	08 かぜ、気管支炎、肺炎	10 かぜ、咽頭炎、扁桃(腺)炎、気管支炎、肺炎	10 かぜ、咽頭炎、扁桃(腺)炎、気管支炎、肺炎	13 かぜ、咽頭炎、扁桃(腺)炎、気管支炎、肺炎	13 かぜ、咽頭炎、扁桃(腺)炎、気管支炎、肺炎
	インフルエンザ		11 インフルエンザ	11 インフルエンザ	14 インフルエンザ	14 インフルエンザ
類型Ⅳ	消化器系	10 下痢、腹痛、便秘				
			13 胃腸炎などの消化器系の病気、下痢、腹痛、便秘などの症状(腸重積を除く)	13 胃腸炎などの消化器系の病気、下痢、腹痛、便秘などの症状	15 胃腸炎などの消化器系の病気、下痢、腹痛、便秘などの症状	15 胃腸炎などの消化器系の病気、下痢、腹痛、便秘などの症状
			14 腸重積			
	結膜炎、アレルギー性鼻炎	06 結膜炎				
			07 結膜炎(アレルギー性を除く)	07 結膜炎(アレルギー性を除く)	06 結膜炎(アレルギー性は07へ)	06 結膜炎(アレルギー性は07へ)
			08 アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎	08 アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎	07 アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎	07 アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎
対象外	中耳炎・外耳炎	07 中耳炎、外耳炎	09 中耳炎、外耳炎	09 中耳炎、外耳炎		
					11 中耳炎	11 中耳炎
					12 外耳炎	12 外耳炎
	アトピー性皮膚炎	12 アトピー性皮膚炎、湿疹	16 アトピー性皮膚炎、湿疹			
				15 アトピー性皮膚炎	09 アトピー性皮膚炎	09 アトピー性皮膚炎
	ぜんそく	09 ぜんそく	12 ぜんそく	12 ぜんそく	08 ぜんそく	08 ぜんそく
対象外	食物アレルギー	16 食物アレルギー	19 食物アレルギー	19 食物アレルギー	10 食物アレルギー	10 食物アレルギー
	発達と行動面の相談				21 発達と行動面の相談	21 発達と行動面の相談
	先天性の病気	14 先天性の病気	17 先天性の病気	17 先天性の病気	18 先天性の病気	18 先天性の病気
	突発性発疹	05 突発性発疹				
	その他の皮膚炎	13 その他の皮膚炎				
	う歯		20 う歯【むし歯】	20 う歯【むし歯】	20 う歯【むし歯】	20 う歯【むし歯】
対象外	外傷					
		18 打撲、切り傷				
		19 骨折	22 骨折	22 骨折		
		20 やけど	23 やけど	23 やけど		
		21 その他のけが【外傷】	24 その他のけが	24 その他のけが(病気以外の原因によるもの)		
				23 けが(骨折・やけどを含む)	23 けが(骨折・やけどを含む)	

注:「その他の病気」にあたる選択肢は分類の対象外。また、表中の数字は調査票における選択肢番号。

	第7回(7歳)	第8回(8歳)	第9回(9歳)	第10回(10歳)	第11回(11歳)	第12回(12歳)
	5	5	5	5	5	5
	流行性耳下腺炎【おたふくかぜ】	流行性耳下腺炎【おたふくかぜ】	流行性耳下腺炎【おたふくかぜ】	流行性耳下腺炎【おたふくかぜ】	流行性耳下腺炎【おたふくかぜ】	流行性耳下腺炎【おたふくかぜ】
	3	3	3	3	3	3
	風しん【三日はしか】	風しん【三日はしか】	風しん【三日はしか】	風しん【三日はしか】	風しん【三日はしか】	風しん【三日はしか】
	2	2	2	2	2	2
	水痘【水ぼうそう】	水痘【水ぼうそう】	水痘【水ぼうそう】	水痘【水ぼうそう】	水痘【水ぼうそう】	水痘【水ぼうそう】
	23	23	23	23	23	23
	咽頭結膜熱【プール熱】	咽頭結膜熱【プール熱】	咽頭結膜熱【プール熱】	咽頭結膜熱【プール熱】	咽頭結膜熱【プール熱】	咽頭結膜熱【プール熱】
	4	4	4	4	4	4
	麻疹【はしか】	麻疹【はしか】	麻疹【はしか】	麻疹【はしか】	麻疹【はしか】	麻疹【はしか】
	24	24	24	24	24	24
	溶連菌感染症	溶連菌感染症	溶連菌感染症	溶連菌感染症	溶連菌感染症	溶連菌感染症
	17	17	17	17	17	17
	伝染性膿痂疹【とびひ】	伝染性膿痂疹【とびひ】	伝染性膿痂疹【とびひ】	伝染性膿痂疹【とびひ】	伝染性膿痂疹【とびひ】	伝染性膿痂疹【とびひ】
	6	6	6	6	6	6
	川崎病	川崎病	川崎病	川崎病	川崎病	川崎病
	20	20	20	20	20	20
	けいれん、ひきつけ	けいれん、ひきつけ	けいれん、ひきつけ	けいれん、ひきつけ	けいれん、ひきつけ	けいれん、ひきつけ
	18	18	18	18	18	18
	湿疹(アトピー性皮膚炎は10へ)	湿疹(アトピー性皮膚炎は10へ)	湿疹(アトピー性皮膚炎は10へ)	湿疹(アトピー性皮膚炎は10へ)	湿疹(アトピー性皮膚炎は10へ)	湿疹(アトピー性皮膚炎は10へ)
	14	14	14	14	14	14
	かぜ、咽頭炎、扁桃(腺)炎、気管支炎、肺炎(溶連菌感染症によるものは24へ)	かぜ、咽頭炎、扁桃(腺)炎、気管支炎、肺炎(溶連菌感染症によるものは24へ)	かぜ、咽頭炎、扁桃(腺)炎、気管支炎、肺炎(溶連菌感染症によるものは24へ)	かぜ、咽頭炎、扁桃(腺)炎、気管支炎、肺炎(溶連菌感染症によるものは24へ)	かぜ、咽頭炎、扁桃(腺)炎、気管支炎、肺炎(溶連菌感染症によるものは24へ)	かぜ、咽頭炎、扁桃(腺)炎、気管支炎、肺炎(溶連菌感染症によるものは24へ)
	15	15	15	15	15	15
	インフルエンザ	インフルエンザ	インフルエンザ	インフルエンザ	インフルエンザ	インフルエンザ
	16	16	16	16	16	16
	胃腸炎などの消化器系の病気、下痢、腹痛、便秘などの症状	胃腸炎などの消化器系の病気、下痢、腹痛、便秘などの症状	胃腸炎などの消化器系の病気、下痢、腹痛、便秘などの症状	胃腸炎などの消化器系の病気、下痢、腹痛、便秘などの症状	胃腸炎などの消化器系の病気、下痢、腹痛、便秘などの症状	胃腸炎などの消化器系の病気、下痢、腹痛、便秘などの症状
	7	7	7	7	7	7
	結膜炎(アレルギー性は8へ)	結膜炎(アレルギー性は8へ)	結膜炎(アレルギー性は8へ)	結膜炎(アレルギー性は8へ)	結膜炎(アレルギー性は8へ)	結膜炎(アレルギー性は8へ)
	8	8	8	8	8	8
	アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎	アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎	アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎	アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎	アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎	アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎
	12	12	12	12	12	12
	中耳炎	中耳炎	中耳炎	中耳炎	中耳炎	中耳炎
	13	13	13	13	13	13
	外耳炎	外耳炎	外耳炎	外耳炎	外耳炎	外耳炎
	10	10	10	10	10	10
	アトピー性皮膚炎	アトピー性皮膚炎	アトピー性皮膚炎	アトピー性皮膚炎	アトピー性皮膚炎	アトピー性皮膚炎
	9	9	9	9	9	9
	ぜんそく	ぜんそく	ぜんそく	ぜんそく	ぜんそく	ぜんそく
	11	11	11	11	11	11
	食物アレルギー	食物アレルギー	食物アレルギー	食物アレルギー	食物アレルギー	食物アレルギー
	22	22	22	22	22	22
	発達と行動面の相談	発達と行動面の相談	発達と行動面の相談	発達と行動面の相談	発達と行動面の相談	発達と行動面の相談
	19	19	19	19	19	19
	先天性の病気	先天性の病気	先天性の病気	先天性の病気	先天性の病気	先天性の病気
	21	21	21	21	21	21
	う歯【むし歯】	う歯【むし歯】	う歯【むし歯】	う歯【むし歯】	う歯【むし歯】	う歯【むし歯】
	26	26	26	26	26	26
	けが(骨折・やけどを含む)	けが(骨折・やけどを含む)	けが(骨折・やけどを含む)	けが(骨折・やけどを含む)	けが(骨折・やけどを含む)	けが(骨折・やけどを含む)